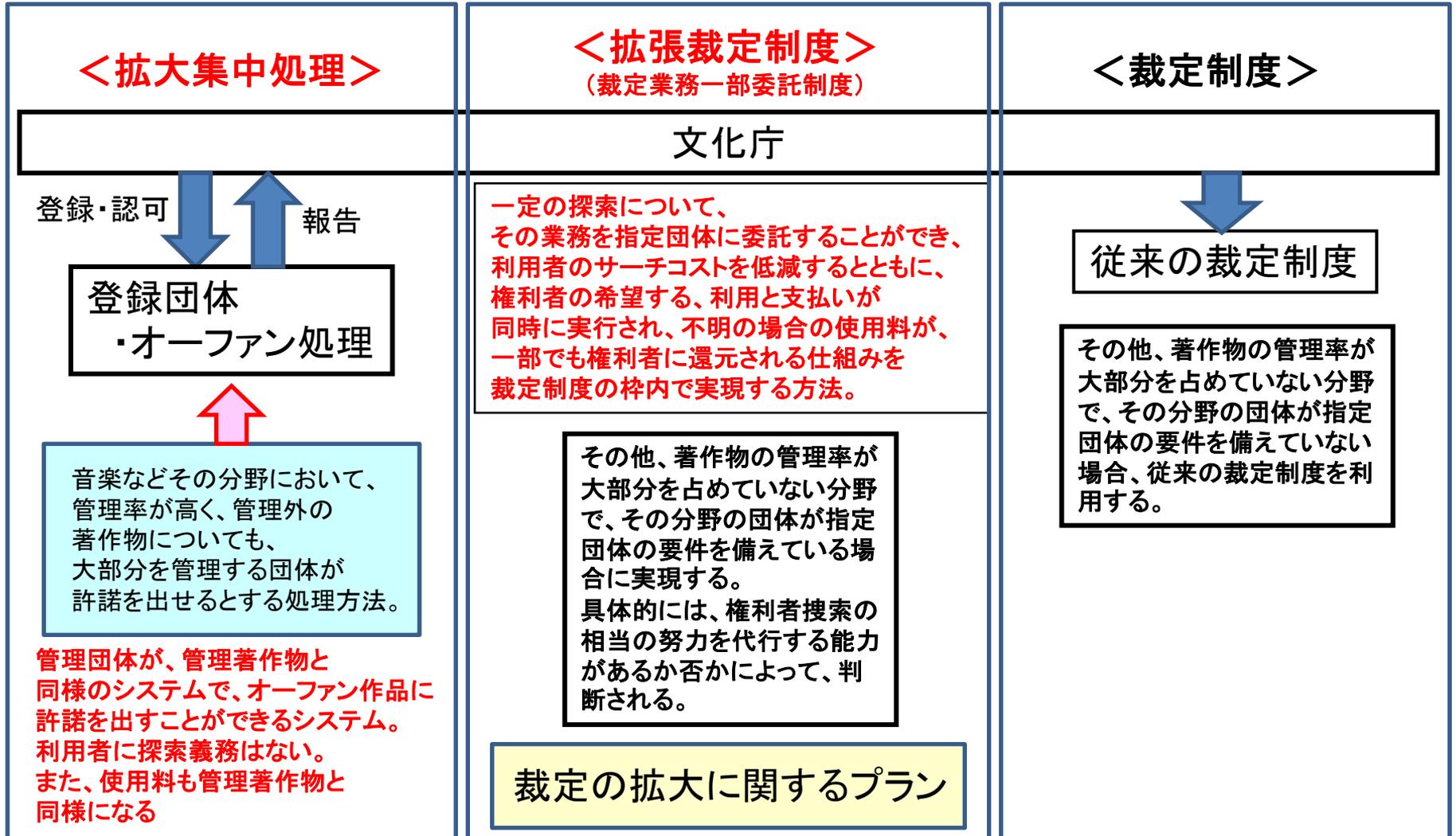


<アーカイブ活用にとって最大の問題点>

それはアーカイブに取っただけではなく、  
今後のコンテンツ利用全般において、  
どうしても解決しなければならない問題点だろう。

オーファンワークス。

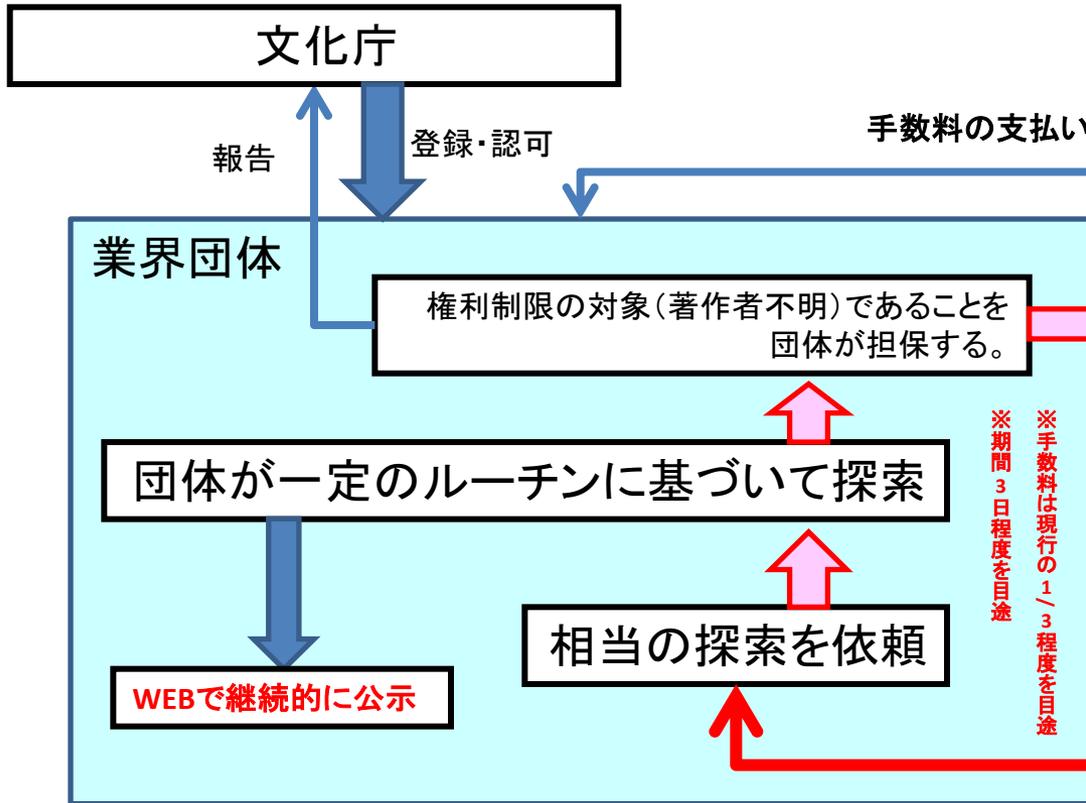
# 4. 制度のイメージ



# 4. 制度のイメージ

## 拡張裁定制度プラン

### <相当の探索委託制度>

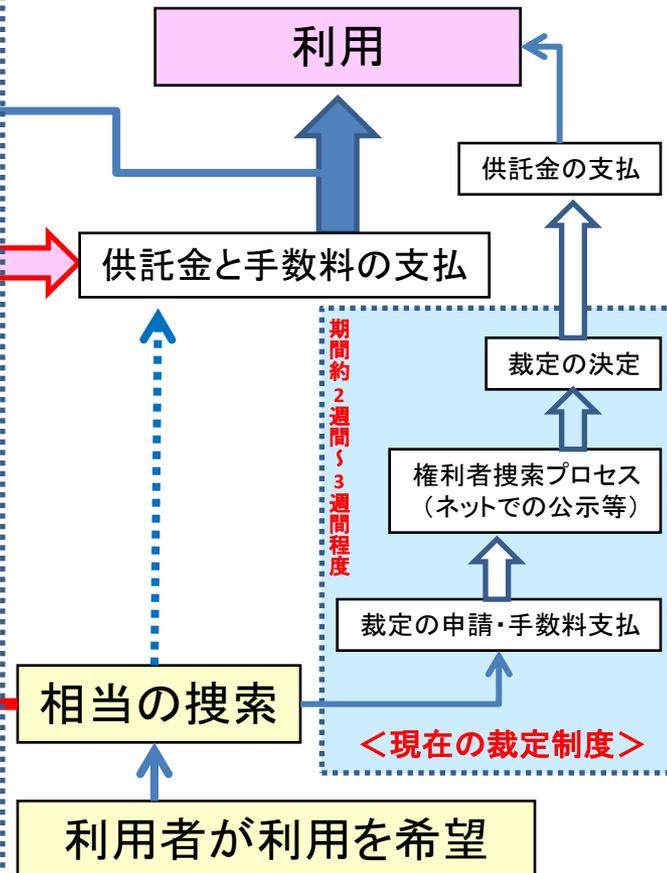


業務委託

各分野での利用を勧案し、一定要件を満たした場合、探索業務の代行を委託する。

### <裁定制度の一部業務代行>

著作者不明の著作物について、登録団体が相当の探索を、委託を受けて代行することができるシステム。

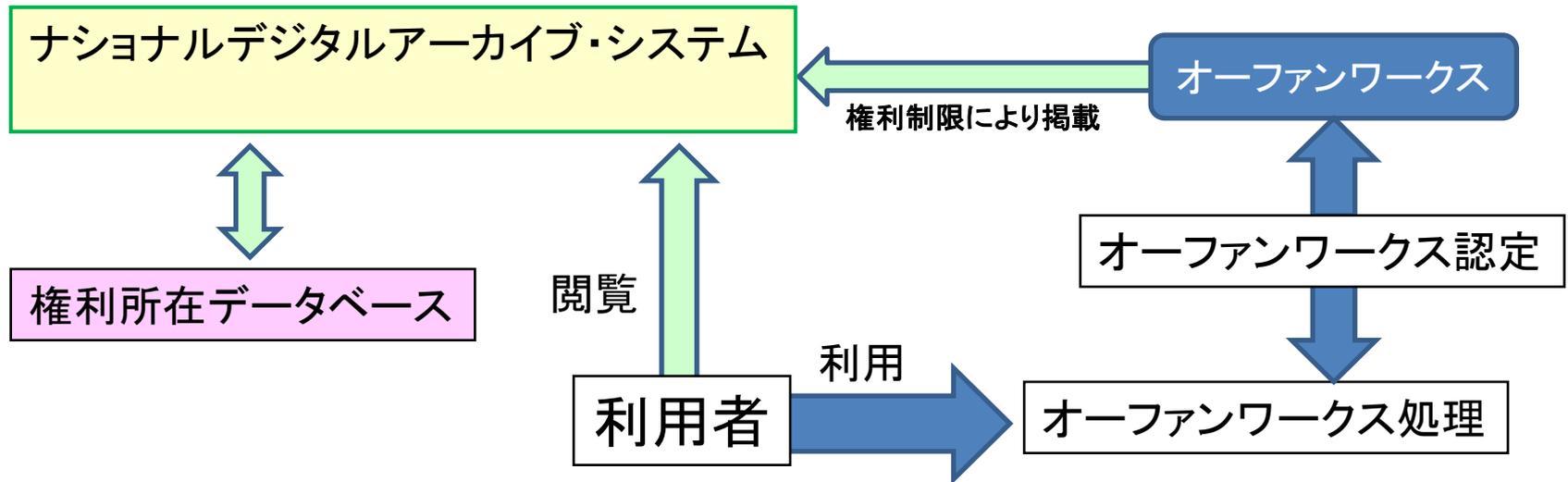


<現在の裁定制度>

## 4. 制度のイメージ

### オーファンワークスの利活用について

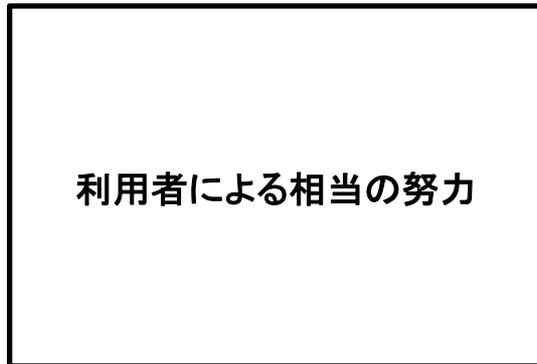
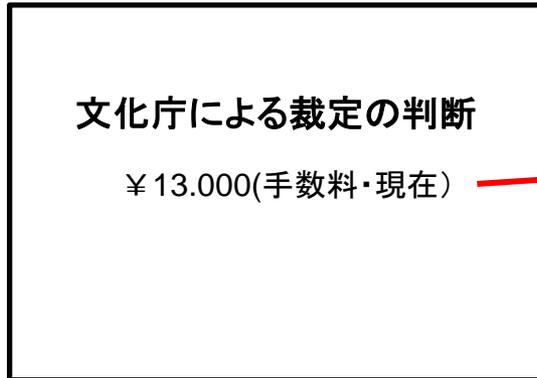
利用開始のトリガーは孤児作品認定によるアーカイブ化と公開



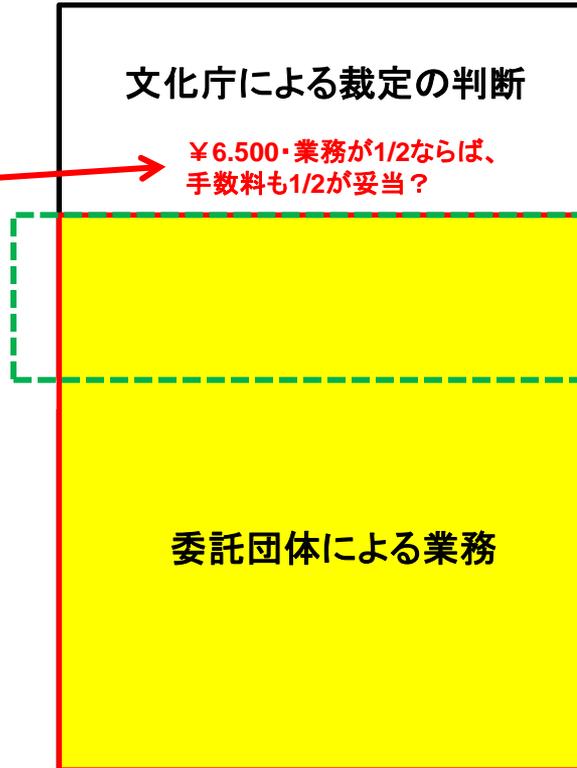


# <制度変更のイメージ>

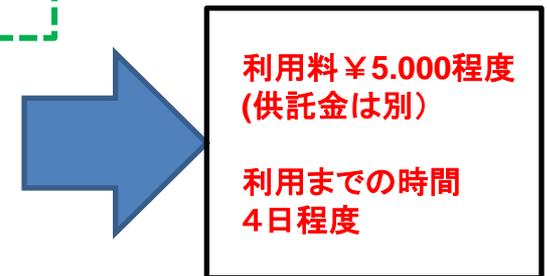
## (現行裁定制度)



## (拡張裁定制度)



## 目標



※このイメージでは、  
利用が増えれば増えるほど著作物ごとの手数料は安くなる。  
また、これにより、著作物のまとめなければならない数が減り、  
より迅速な処理が可能となる。

より少ないベースとなる裁定利用で申請が可能となり、  
(手数料が低いため、少ない数でも著作物ごとの単価が下がる)  
裁定が出るまでの時間が短縮される。  
ただし、現在は7日間のHPでの掲示が必要なため、最短で一週間。  
これより短くするためには法改正が必要。

## ＜今後4年で実施すべき施策＞

アーカイブの中心となる組織を設置すること。  
必要なのは、組織、予算、ポータルサイト。

ステップー1 ・ポータルサイトの設置(民間とも連携)  
・現在あるデータベースの串刺し検索

ステップー2 ・コアとなるアーカイブの設置

ステップー3 ・商業利用まで含めた許諾システムの整備  
・オリンピックでの活用を実現

(例)

文化省の設置

情報アーカイブ庁の設置